

拝啓 今年も早や6月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。先日明治神宮内苑に行きましたところ、花菖蒲は定評通り見事でしたが、その他に池に大きな睡蓮の花が沢山咲いており、きれいでした。睡蓮を見るたびに、横川法語の「妄念の内より申し出したる念仏は濁りにしまぬ蓮の如く、決定往生疑あるべからず」という言葉を思い出します。

今回は、カウマン夫人編著の「日の出に向かって」(日本ホーリネス教団出版部)の7回目です。7月5日のところに、次のように書かれています。

「幸福な人生とは、海外旅行や楽しい休日にあるのではなく、道端に隠れてしまって、やっと気が付くほどの小さな一群のすみれの花にあるのです。そして、神の平和と愛を心に持っている人だけがその小さなすみれの花を見ることができるのです。そういう人とは、小さな喜びの繰り返し、霊的な小さなひらめき、日毎の務めの上に注がれる陽の光などの中に神の愛を見出します。長い間、私は自然や新約聖書に親しんできましたので、毎日が益々一層楽しくなるばかりです。

人生は、太陽に向かってひまわりではなく、一部は日陰にあり、一部はひなたにあるすみれのようなものです。ちょうど真昼があるように、真夜中がありますが、真夜中はすべて真昼へ向かう道程なのです。」

そういえば、我が家の小さな庭に、今ねじれ花が咲いておりますが、妻はそれをビニールのひもで囲って私が踏まないように注意して育てました。今年は沢山咲きました。

私たちは、昭和43年5月18日に結婚しましたので、今年が金婚式でした。私たちの結婚式は、神田美土代町にあった東京YMCAで行ない、小西芳之助先生に司式をお願いし、仲人は当時の建設省都市局長竹内藤男、要子御夫妻にお願いしました。

小西先生の結婚式式辞と披露宴祝辞は、当時の教会マンスリーの「よろこび」第191号に掲載してくださいました。その披露宴祝辞に「この場所はちょうど50年前、私が一高時代、内村鑑三の説教を初めて聞きし場所である。本日は、私一人で凡人の姿で君たちの結婚式をお祝いしているが、金婚式には師の内村鑑三と二人にて、天より参加してお祝いするであろう」と述べてくださいました。このため、私は信仰の友人をお招きして金婚式を行ないたかったのですが、賛成が得られず、日本にいる3男の息子一人が設けてくれた地上34階にある展望の良いレストランで3人だけの金婚式でした。50年色々のことがありましたが、お互いよく辛抱しました。今日までこれたことを感謝します。

6月13日、村野憲政さんと山の会OBの数人と一緒に明治神宮内苑、明治神宮、代々木公園の散策を致しました。明治神宮本殿の裏に、広大な森林と芝生の広場、池があり、そこは人もまばらで静かで、都心にこんなところがあったのかと一同驚きました。

梅雨の時期もおわりに近づき、暑い夏がやってきますが、どうぞ皆様、健康に留意されて、毎日お元気でお過ごしください。

敬具

平成30年6月23日

山口周三

エンカウターの読者各位